



〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学外国語学部・経営学部・
人間学部・保健医療技術学部／大学院
／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

大学 「本学開学30周年記念シンポジウム」で渋沢を語る

「渋沢栄一に学ぶ現代の大学教育」をテーマに「本学開学30周年記念シンポジウム」が6月19日、仁愛ホールにて対面とオンラインライブ同時配信の併用で開催され、登壇者が渋沢への想いを語りました。

当日は、川越仁恵経営学 部准教授の司会により、ま ず櫻井隆学長が挨拶。続いて、島田昌和理事長、渋沢 研究會代表が「渋沢栄一の 社会像からみた現代教育」を演題に基調講演を行いました。

『人としての向上心を持つ ベースを備えた人材』『組織の枠を超えて、人と価値を共有することで結びつき、協力体制を構築できる人材』を育成する役割があることなどを説いた渋沢の言葉に触れました。

続いて、一橋大学大学院経営管理研究科の田中一弘教授が「渋沢栄一の『2つの道理』からみた現代教育」を演題に基調講演を行いました。「渋沢と一橋大学との関わり」を皮切りに、「『道理』を大切にしたい」として「人は何よりもまず、道理を明らかにせねばならぬ」「道理正しい私利であれば、私利即ち公益である」という言葉を紹介。さらに、「合理と倫理の2つの道理」「学問と実際の密着（学部・社会人教育）」など、渋沢が現代の大学教育へ示唆した内容について話しました。

それらを受けて行われたパネルディスカッションでは、本学の亀川雅人副学長・特任教授／立教大学名誉教授をモデレーターに、パネリストとして島田理事長、田中氏、みずほフィナンシャルグループ名誉顧問の塚本隆史氏、清水建設株式会社代表取締役社長の井上和幸氏、インフィニティ代表取締役／立教大学大学院ビジネスデザイン研究科客員教授の牛窪恵氏（オン

ライン参加、本学の福井 勉副学長・教授が登壇。 渋沢研究会会員である塚本氏は、渋沢が説く「道徳 経済合一」の価値観に共鳴 維新後の日本にあって産業 振興、教育、社会事業、民 間外交など、時代の直面す る難題に挑戦し続けた渋沢 の使命感と気概に学び、現 代に生きる我々が担うべき 高い志・ミッションに迫り ました。

福井副学長は、渋沢の「人 としてあるべき姿や社会の 一員として責任を果たす 利他思想の根幹は、教育に 適用・活用できる視点であ る」と考え、今、求められる 教育実践の在り方を渋沢 の思想から学ぼうとする想 いについて話しました。

井上氏は、1887年か ら約30年間、渋沢が同社相 談役として経営指導を行っ たことに触れました。渋 沢の「論語と算盤」を「社 是」と捉え、その精神が、 同社共通の経営姿勢として 受け継がれている様子につ いて語りました。

牛窪氏は、渋沢が世界的 な経営思想家ドラッカー の、現代のSDGsにも繋 がる「社会的責任」の概念 にも影響を与えたことに触 れました。さらに、設立に 尽力した富岡製糸場におい て「女性の活躍推進」の礎 となった試みについて力説 しました。



大学院 看護学研究科開設

教育的看護実践能力の育成を目指して、

横田素美 看護学研究科委員長・教授

2021年4月、新たに文京学院大学大学院看護学研究科を開設することができました。

設置認可を頂いた時期が昨年10月でしたので、募集期間も限られ、本年度の入学生は4名に止まりましたが、いずれの院生も、新たな知識の修得と看護現象を熟思できる力の鍛錬に鋭意努力しています。

看護は、あらゆる年代、あらゆる健康レベルの方を対象として、対象者自らが健康を保持・増進、あるいは回復していける力を獲得することを支援する役割を担っています。しかしながら、自己管理能力を対象者が獲得できるように支援することは、決して容易ではなく、看護実践の中でも高度なものです。

そのため、本研究科は、自己管理能力に必要な意思決定や行動変容を支援する教育的な看護実践力を修得し、臨床現場にその研究成果を還元できる人材の育成を目的として開設しました。

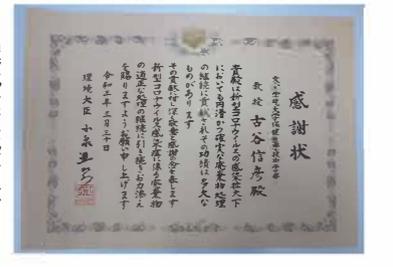
また、最期まで対象者が、尊厳ある存在として生活できることを支援できる高い倫理観を備えた人材を輩出していきます。



大学 古谷教授「環境大臣感謝状」受領



古谷教授



環境大臣感謝状

提供したことについて19団体・4個人の一人として「環境大臣感謝状」を受領しました。

古谷教授は、環境省が作成する「新型コロナウイルスに係る廃棄物の適正な処理方法を決定し、医療機関、処理業者、一般家庭に対する周知資料」の中で生じたさまざまな疑問点について、環境省から問い合わせを受け、古谷教授の専門である感染学・感染制御学の観点から科学的根拠に基づいて回答してきました。

古谷教授は次のコメントを述べました。「廃棄物は処理業者が収集、運搬し、焼却しますが、新型コロナウイルス感染者が家庭で療養されている場合は、通常

の廃棄物と感染性廃棄物が分別されているわけではありませんが、処理業者に集団感染が起きた場合は、廃棄物処理が滞り、感染性廃棄物も医療機関あるいは家庭内で一時保管せざるを得ない状況が生まれ、感染リスクが高まります。そのようなことが起こらないように環境省の新型コロナウイルスに係る廃棄物の適正な処理方法の決定と、医療機関、処理業者、一般家庭に對するその周知資料の作成に協力いたしました」

大学 美術教科書に掲載外国人向け「地震防災マニュアル」

本学が2016年に制作・発表した外国人向け「地震防災マニュアル」が、令和3年度から使用される開隆堂出版の「中学校（2・3年生用）美術教科書」に、「安心と安全のデザイン」の一例として掲載されました。中学校美術の教科書への掲載は、今回が初めてとなります。

同マニュアルは、地震の経験や防災知識が薄い外国人

でも地震発生時に適切な対応ができるよう「初動」に内容を絞り、また、読まずに内容が瞬時に理解できるように一目でわかる「インフォグラフィック」を活用して英語版・中国語版・日本語版（PDF版のみ）を制作し、発表したりアップロードです。

掲載された美術教科書表紙

「地震防災マニュアル」掲載ページ



中高 各大会で生徒パワー発揮

新型コロナウイルスの影響で、各部・個人ともに十分な活動ができない中、生徒たちはそれぞれの練習や課題に熱心に取り組む、この1年間に各大会で続々と入賞を果たしました。

(顔写真提供：スタジオ・トナリ)

【書道部】
全国競書大会
「大会委員長賞」



三浦さん

【第57回全国競書大会】
(主催)公益社団法人創文書道会)審査会が昨年11月18・19日、金子鷗亭記念創文会館内(豊島区目白)で行われ、室井文登理事長は

【吹奏楽部】
東京都高等学校
アンサンブル
コンテスト
「銀賞」



松井さん



渡邊さん

【第44回東京都高等学校アンサンブルコンテスト】
(主催)東京都高等学校吹奏楽連盟)が1月5・6日、



坂田さん



橋本さん

府中の森芸術劇場で開催されました。
渡邊那月さんと松井風沙さん(現高3秋)、坂田和央さん(現高1楓)と橋本妃香さん(現中3桃)が、5日にふるさとホールで行われた木管部門・クラリネット四重奏の部で『お団子ヘアの女の子』(八木澤教

じめ、創文理事・監事・参与・評議員21名、審査員39名による厳正なる審査が行われました。その結果、本校の三浦叶夢さん(現高3秋)が「大会委員長賞」を受賞しました。

同大会は例年、国内外から3万点を超える力作が集まり、今回も一般部・条幅2754点、半紙4094点、学生部2万5112点の出品がありました。

三浦さんから次のコメントが寄せられました。
●大会参加にあたり、私は

「隸書の文字を書きました。それを書くこと思ったとき、かけは、先生にアドバイスをいただいていた時に、やりがいと楽しさを感じたからです。」

隸書は字体が扁平で、右上がりにならずに一定の速さで書くことが求められるため、書き慣れるまでかなりの時間がかかり、苦戦しましたが、10年近く書と向き合い、大きな大会でのような賞をいただくことが出来て、達成感と喜びを味わうことができました。

司作曲)を軽やかに演奏し、「銀賞」を受賞しました。
4名を代表して、渡邊さんから次のコメントが寄せられました。
●今回、クラリネット四重奏で演奏した曲はコーチが選曲してくださいました。とても難しい曲で、本当にできるのか、とても不安でした。

また、今回中学生と一緒に出場しましたが、中学と高校の区別無く一緒に演奏できたことが良いことだと思います。9月頃から練習を始め、本番直前まで不安や緊張の気持ちでいっぱいでしたが、「銀賞」という良い結果を残せて良かったです。
まだまだ反省点や伸びしろがありますので、今後はさらにも上を目指せるように頑張っていきたいと思っております。

「春季大会兼関東大会予選大会」(主催)東京都高等学校体育連盟)が5月5・9・16日、十文字高等学校で開催され、本校は下北沢成徳高校や共栄学園高校との激戦を制し優勝。関東大会への27大会連続28回目の出場が決定しました。
関東大会は6月5日・6日、ひたちなか市総合運動公園総合体育館(茨城県)で開催。全員バレーによる



部活動

【高校バレー】
関東大会「準優勝」

「春季大会兼関東大会予選大会」(主催)東京都高等学校体育連盟)が5月5・9・16日、十文字高等学校で開催され、本校は下北沢成徳高校や共栄学園高校との激戦を制し優勝。関東大会への27大会連続28回目の出場が決定しました。
関東大会は6月5日・6日、ひたちなか市総合運動公園総合体育館(茨城県)で開催。全員バレーによる

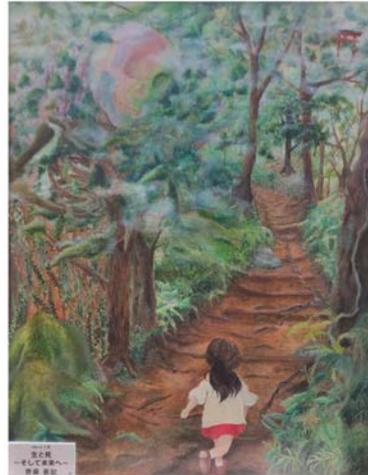
【美術部】
福知山市佐藤太
清賞公募美術展
「入賞」



齋藤さん

【第20回福知山市佐藤太清賞公募美術展】が昨年秋季に行われ、本校の齋藤亜紀さん(現高3梅)が「絵画の部」に入賞しました。
同展は、現代日本画壇の重鎮で平成4年に文化勲章を受章し、第一線で活躍する多くの日本画家を育成した故佐藤太清画伯の功績を讃え、同氏の故郷・京都府福知山市が主催する公募展

で、日本画の若手登竜門です。今回は、全国25都道府県より148点の出品がありました。
そのうちの入選・入賞作品69点を展示する巡回展が、今年1月から3月にかけて各地で開催されました。関東では「横浜赤レンガ倉庫1号館」と「板橋区立美術館」が会場となり、多くの来場者が作品を堪能しました。
齋藤さんの作品テーマは「生と死」そして未来へ。その想いを次のように寄せてくれました。
●絵のテーマは、コロナ禍における生死、自身の誕生と母との別れです。この絵のモデルでもある貴船神社は、私の誕生と母との別れを象徴する場所です。



入賞作品

また、絵を描くことになった時期、コロナで命を落とす人々が増えたことで、生と死を強く意識するようになった。そこから明らかになった。このテーマを表現するために、死を分りやすく表せる骸骨を死神に見立てました。今後も公募展に出品して、絵画部門で大賞を目指して日々努力していきたいと思っております。

5月30日からは「インターハイ全国高等学校総合体育大会予選大会」(駒場高校他)がスタートし、本校は、3日目の6月20日時点で四強入りを果たし、27日に開催される代表決定リーグへと駒を進めました(結果は次号掲載)。
廣田あいキャプテン(3杉)から次のコメントが届きました。
●関東大会予選大会は新チームになって初めての試合で「絶対に優勝する」という気持ちで挑みました。一番大変だった試合は、決勝戦の共栄学園高校です。1セット目を先取され、追いかける形の試合となりましたが、課題が残りましたが、

予選を1位で通過し、関東大会への出場が決定してホッとしました。
関東大会は、準々決勝で春日部共栄高校(埼玉)と戦い勝ちました。準決勝で八王子実践高校、決勝で下北沢成徳高校との東京4強の戦いで、私たちが相手の対策を練る以上に、相手チームも私たちへの対策を練っていることを対戦中に実感しました。どのチームも、予選大会の時よりもはるかに強くなっていて、決勝では1・2で敗れ、私たちの課題が明確になりました。相手によって、どのように攻撃するか守るかをさらに具体的に明確化する必要性を痛感しました。
課題をクリアしてインターハイ予選決勝に臨みます。



全員バレーで練習に励む生徒たち(撮影時のみマスクなし)

中学 「SAKURA Card」で楽しいコミュニケーション

中学では、昨年度より全学年を通じて「SAKURA Card」プロジェクトを推進しています。考案者は、中3学年サポートのジョン・サイバル(John Sybal)先生。コロナ禍で、日々みんながマスクを着用する中「生徒も自分もお互いの顔が判りにくい。個々の顔写真とそれぞれの情報が判るものを共有できれば」と考えました。

「SAKURA Card」の名称は、中学・高校のシンボルマークである「富士と桜」にちなんでいます。生徒が桜色・桜形の用紙に「氏名・学年・クラス」「誕生日」「してみたいこと」「好きなこと(物)」「苦手なこと(物)」を自由に記入し、個々がお気に入りの顔写真

と一緒に貼付して完成。現在、校舎2階コンピューター室の壁にクラスごとに展示され、生徒たちがお互いを知るために役立っています。サイバル先生は、次のように成果を喜んでいました。

「生徒たちはスマホアプリを熟知しているので、顔写真に動物の耳やヒゲがついたり、目が大きくなったりして元の顔が判らないものもあるけれど、写真選びをととても楽しんでいて、それぞれがお気に入りの写真なのだから構わないのです。このカードを見ることで、クラスメイトだけではなく、憧れの先輩の情報を知ったり、後輩の知らない部分を知ったりと、とても良いコミュニケーションツールになっていることがうれしい。会話のきっかけとして上手に利用して、皆仲良くなってほしいですね」

さらに、英会話を学びたいと願う全ての人々に次のメッセージを贈りました。

「何かパーフェクトに話そうとするよりも、興味のあること、楽しいことについて話すほうがよいですね。相手に知ってほしいことがあるとよいと思います。あなたが相手と英語でコミュニケーションをとりたいと願うならば、笑顔で話して楽しんで!」



「SAKURA Card」の前で談笑するサイバル先生と生徒



「SAKURA Card」サンプル

**日本倫理・哲学
グランプリ
「奨励賞」**
天笠はるか
(現高2藤)



「2020日本倫理・哲学グランプリ」(主催IPO日本組織委員会)が昨年10月に開催され、天笠さんが「奨励賞」を受賞しました。

**世界華人
学生作文大会
「三等賞」**
中村美嘉
(現高2藤)



「第21回世界華人学生作文大会」(共催I全中国帰国華人連盟、全中国台湾同胞協会など)が昨年10月10日に行われ、中村さんが「三等賞」を受賞しました。

参加者は、独自の視点で中国や文化を語り、中国と世界の人の架け橋となつて中国と外国の文化交流を促進する重要な人材といえます。

同大会は「若者が思考力を哲学的に培い、訓練すること」を目的に、毎年、中学・高校生を対象に行われている倫理・哲学のエッセイ・コンテストで、今回は110編の応募がありました。

課題は、プラトン、ジャン・ジャック・ルソー、アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド、松尾芭蕉の言葉から一つを基にエッセイを書きあげるものでした。

天笠さんは「ルソー」を取り上げて、今回の受賞に結びつきました。天笠さんから次のメッセージが届きました。



「中国語を教わっていた先生の薦めにより応募をしました。作文の題名は「〴〵の悩み事」決められていて、単に「誰々の悩み事」とつくと面白くないので、最初から最後まで書いた人は明かすにモヤモヤした状態から読み進めてもらいたい、読む過程で次第に気づいてもらえるように仕上げました。

また、四字熟語を入れることにより文章を昇華させることができたと思えます。今回の経験を経て、私は続ける事の大切さを新たに感じる事ができました。

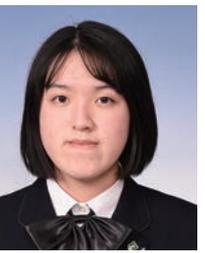
次は一等賞を取れるように勉強を続けてその日の到来を迎えたいです。

ルソーの欲望論に対する抗論を書き、作業の過程で一貫してルソーの命題を否定し尽くすように努めました。溜め込むしかなかった自分の思想を、受賞という形で他の人に認めてもらえたことがうれしかったです。

今年他の小論文コンクールなどにも挑戦してみたいです。

渡辺さんからのメッセージが届きました。

**日本語能力試験
「N1」に合格**
渡辺佳恵
(現高2藤)



2020年「第2回日本語能力試験」(主催I国際交流基金、日本国際教育支援協会)が昨年12月6日に実施され、渡辺さんが同試験最高位の「N1」に合格しました。

中国出身の渡辺さんは、日本の学校に通った期間は短いものの、本校でも着実に日本語能力を伸ばし、今回の快挙となりました。

今年他の小論文コンクールなどにも挑戦してみたいです。

渡辺さんからのメッセージが届きました。

渡辺さんからのメッセージが届きました。

渡辺さんからのメッセージが届きました。

渡辺さんからのメッセージが届きました。

渡辺さんからのメッセージが届きました。

渡辺さんからのメッセージが届きました。

高校 卒業生の「合格体験談」視聴

N.Sさん(スポーツ科学コース卒業)
立教大学コミュニケーション福祉学部コミュニケーション政策学科(推薦)

K.Mさん(理数キャリアコース卒業)
順天堂大学医療看護学部看護学科(一般)

K.Tさん(国際教養コース卒業)
上智大学外国語学部英語学科(推薦)

この春、高校を卒業した卒業生による「合格体験談」が5月19日、シャシホールにて映像で語られ、高校3年生全員が熱心に聴き入りました。例年であれば、実際に卒業生が登壇して進路実現までの体験を語り、後輩にエールを送るのですが、今回はコロナ禍であることから、事前に撮影した質疑応答の映像を通してメッセージを伝えました。

文京学院での生活
M.Kさん(理数キャリアコース卒業) 東邦大学理学部生物学科(推薦)

文京学院での生活
N.Sさん(スポーツ科学コース卒業) 立教大学コミュニケーション福祉学部コミュニケーション政策学科(推薦)

文京学院での生活
K.Mさん(理数キャリアコース卒業) 順天堂大学医療看護学部看護学科(一般)

文京学院での生活
K.Tさん(国際教養コース卒業) 上智大学外国語学部英語学科(推薦)

文京学院での生活
M.Kさん(理数キャリアコース卒業) 東邦大学理学部生物学科(推薦)

基礎を学びました。夏休みに複数の医療系大学の過去問題を解きました。合格を勝ち取った要因は生物を取った人が多く、点数が僅差になると聞いたため、文系科目でしっかりと点数が取れるように英語と国語の対策をして、バランス良く勉強したことだと思います。

1年次から英単語をしっかりと覚えることです。3年次で受験勉強が本格化する中で、英語は単語が解らなければどうしようもないことを痛感し、ギリギリまで英単語で苦勞しました。一般受験する後輩へ推薦入試がうまくいかず、「一般人試で頑張る！」という強い気持ちが生まれ、この道を目指しました。受験校を絞り込む決め手は、実際にオープンキャンパスに行き、雰囲気の良い大学を選びました。具体的な勉強方法として、看護・医療系の塾に通っていたので、そこで小論文

1年次から医療関係に興味がありました。2年次に東日本大震災に関する研究を通じて看護師の姿に憧れ、この道を目指しました。受験校を絞り込む決め手は、実際にオープンキャンパスに行き、雰囲気が良い大学を選びました。具体的な勉強方法として、看護・医療系の塾に通っていたので、そこで小論文

1年次から英単語をしっかりと覚えることです。3年次で受験勉強が本格化する中で、英語は単語が解らなければどうしようもないことを痛感し、ギリギリまで英単語で苦勞しました。一般受験する後輩へ推薦入試がうまくいかず、「一般人試で頑張る！」という強い気持ちが生まれ、この道を目指しました。受験校を絞り込む決め手は、実際にオープンキャンパスに行き、雰囲気が良い大学を選びました。具体的な勉強方法として、看護・医療系の塾に通っていたので、そこで小論文

1年次から英単語をしっかりと覚えることです。3年次で受験勉強が本格化する中で、英語は単語が解らなければどうしようもないことを痛感し、ギリギリまで英単語で苦勞しました。一般受験する後輩へ推薦入試がうまくいかず、「一般人試で頑張る！」という強い気持ちが生まれ、この道を目指しました。受験校を絞り込む決め手は、実際にオープンキャンパスに行き、雰囲気が良い大学を選びました。具体的な勉強方法として、看護・医療系の塾に通っていたので、そこで小論文

1年次から英単語をしっかりと覚えることです。3年次で受験勉強が本格化する中で、英語は単語が解らなければどうしようもないことを痛感し、ギリギリまで英単語で苦勞しました。一般受験する後輩へ推薦入試がうまくいかず、「一般人試で頑張る！」という強い気持ちが生まれ、この道を目指しました。受験校を絞り込む決め手は、実際にオープンキャンパスに行き、雰囲気が良い大学を選びました。具体的な勉強方法として、看護・医療系の塾に通っていたので、そこで小論文

1年次から英単語をしっかりと覚えることです。3年次で受験勉強が本格化する中で、英語は単語が解らなければどうしようもないことを痛感し、ギリギリまで英単語で苦勞しました。一般受験する後輩へ推薦入試がうまくいかず、「一般人試で頑張る！」という強い気持ちが生まれ、この道を目指しました。受験校を絞り込む決め手は、実際にオープンキャンパスに行き、雰囲気が良い大学を選びました。具体的な勉強方法として、看護・医療系の塾に通っていたので、そこで小論文



卒業生の話に聴き入る高3生

カザフスタンの大学とオンライン交流実施

大学

本学は、コロナ禍における国際交流の一環として、2020年10月より絵葉書を通じてコミュニケーション「E H A G A K I P R O J E C T」を実施しています。絵葉書を通じて交流を深めたカザフスタンのアルファラビカザフ国立大学と、2月26日に、初のオンライン交流を実施しました。



オンライン交流で絵葉書を見せ合う学生たち

当日は、同大学東洋学部 同大学生からは「大学ではの学生14名と、本学学生13名が参加。自己紹介や他己紹介でお互い和やかな雰囲気になった中で、本学学生が、一日の過ごし方やセミナー活動、大学周辺のおすすめスポットや、日本の文化、四季について、日本語で丁寧に紹介しました。

時間半のオンライン交流会となりました。絵葉書で交流をしたブルガリア、ウズベキスタンの大学からもオンラインでの交流希望があり、今後もコロナ禍における新しい国際交流を実施していきます。オンライン交流に参加した本学外

国語学部2年(当時)の尾崎慶太郎さんから、次のコメントが寄せられました。「手紙のやり取りは中学生の頃以来で、最近書くことでも、もう一つとあります。異国の会ったこともない方から送られてくる絵葉書を受け取った時は不思議な感覚でした。今回は絵葉書で交流を図った相手とオンライン上で会う初の機会でしたが、アルファラビカザフ国立大学の学生全員が日本語でコミュニケーションを取ろうとする意欲がとても強く、良い刺激を受けました。このような機会を今後も活かし、外国の方と積極的に交流を図っていききたいです」

大学 ふじみ野市議会と連携協定締結

大学

2021年5月21日、本学は、ふじみ野市議会との連携協定をふじみ野キャンパスにて締結しました。

2021年5月21日、本学は、ふじみ野市議会との連携協定をふじみ野キャンパスにて締結しました。当日は双方の関係者が見守る中、小林憲人ふじみ野市議長(当時)と櫻井隆幸学長が、連携協定書に調印しました。同協定に基づき、人材の交流及び育成、大学図書館と議会図書室との連携や市議会の政策形成に関する事項について連携強化を推進することで、学生はより身近に議会の活動を知り、ふじみ野市が抱える課題をタイムリーに知る事が可能となり、まちづくりを自分事として捉えられる学習機会を得ることが出来ます。本学は今後も学生の学びの視野が広がる活動を推進していきます。



ふじみ野市議会と文京学院大学との連携に関する協定書 締結式

(左から)小林議長(当時)、櫻井学長

大学 「ファミコムcafeオンライン」に甲斐田教授が登場

大学

5月19日に開催された「地域連携ステーションファミコム(文京区)主催のライブ配信「ファミコムcafeオンライン」に、外国語学部の甲斐田万智子教授が登場しました。

「ファミコムcafeオンライン」は、「子どもにやさしいまち」を指しています。1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」を日本が1994年に批准して四半世紀が経過していますが、残念ながら「子どもの貧困」や、若年層の自殺率の高さ、児童虐待、性的搾取など、子どもが直面する問題は深刻化しています。

今回の「ファミコムcafeオンライン」で甲斐田教授は、子どもを知識や経験がない未熟な存在として差別するのではなく、権利の主体として見つめ直すこと、そして、子どもが辛い目にあつた時は、身近に相談できる人がいること、問題の取組み方について疑問に思った時は、安心して意見を言ったり話し合える場があることが大事であることを強調しました。



「五月病...」
「暑いし、やる気ない...」
「五月病...」
「五月病...」

「皆も五月病に負けずに頑張ろう!」

大学 第4回「新・文明の旅」授業再開

本学は、3年に一度学生がユーラシア大陸諸国を訪問し、各国の大学との様々な交流活動を行う「新・文明の旅」プログラムを実施しています。本来ならば昨年度第4回目を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により難しい状況となり、1年延期をして今年度4月より授業を再開しました。

第4回目のテーマは「持続可能な未来に向かっての学び～幸福とは何か～」です。学生は訪問予定国のタイ王国、カンボジア王国、インドネシア共和国が抱える社会問題について現状を知り、持続可能な未来に向かって我々ができることについて学んでいきます。前期授業では、訪問国の駐日特命全権大使による講義等を実施し、3カ国について調査・研究をして理解を深めます。後期授業では、前期で学んだ知識を活用して、学部・学年の枠を超えて協働しながら、プレゼンテーション等のアウトプット中心の授業を実施します。

6月1日には、駐日カンボジア王国のウン・ラチャナ特命全権大使が来校し、受講生約60名に対し「Lecture

on The Kingdom of Cambodia」をタイトルに講義を行いました。今後も新型コロナウイルス感染状況を見ながら、学生の多種多様な学びや、海外の学生との交流を深めることができるプログラムを展開していきます。



ラチャナ大使(右中央)と本学教員の会談



ラチャナ大使による講義

大学 ウズベキスタンの学術国際会議 絹川教授が登場



絹川教授

5月24日に開催されたタシケント金融大学(ウズベキスタン)・ウズベキスタン中等教育省共催の学術国際会議に、経営学部の絹川直良教授がオンラインで登壇し「日本の金融市場の発展 COVID-19の影響」をテーマに世界各国から集まった。以下はその一部です。「海外の子どもの様子や権利を知ることができて良かったです。子どもの声を丁寧に聞き、一緒に考え、一緒に行動して、一緒にゴールに向かいたいと思います。発言を強制せず、相談しやすい、思いを言やすい環境や機会をつくるのが大切だと思います。子どもにやさしいまちづくりを目指していきたいです」

新興経済国に向けた日本の経験とその意義」をテーマに6人の基調講演者の1人として発表しました。タシケント金融大学と本学は、教育、研究、その他の関連分野における交流を目的として、2020年1月に学術交流協定を締結しました。今回の学術国際会議は、「現代社会における企業経営、経済、技術、社会科学の強化」をテーマに据えて開催され、当日は世界各国から集まった経済・経営を専門とする研究者が登場しました。絹川教授は、次のようにコメントしています。「今回、ウズベキスタンについてIMF(国際通貨基金)が公開しているさまざまな資料にも目を通しましたが、日本の経験を活かせる領域は非常に広いと感じます。タシケント金融大学との交流を深める過程で、意見交換の場が拡がることに期待し、私も尽力したいと思います」